

## 別紙

## 第6回連続講座『いのち』を考える 講師プロフィール

日程	講師 (敬称略)	プロフィール
10/3 (金)	飯田 史彦 (いいた ふみひこ) 元・福島大学経済経営学類教授、飯田史彦メンタルヘルス・マネジメント研究所長、社会奉仕施設「光の学校」校長 (京都市三条御幸町)  【演題】「生きがいの創造 ～科学的スピリチュアル・ケアの理論と方法」	200 万部を超えるベストセラーとなり各国で翻訳された「生きがい論」シリーズの著者として、『完全版・生きがいの創造 ～スピリチュアルな科学研究から読み解く人生のしくみ』、『ツインソウル ～死にゆく私が体験した奇跡』、『歩き続ける ～生きるのがイヤになったあなたへ』(いずれも PHP)、『いのちの伝言 ～光の世界へ旅立つ前に』(小学館) など、20 冊を超える著書を発表。日本看護学会・学術集会の特別講演など、医療関係の学会・研究会の講師を数多く担当している。
10/10 (金)	池永 昌之 (いけなが まさゆき) 淀川キリスト教病院ホスピス・こどもホスピス病院副院長  【演題】ホスピスで『いのち』を考える	平成 2 年 3 月 宮崎医科大学医学部卒業 平成 2 年 6 月 淀川キリスト教病院 内科勤務 平成 5 年 10 月 淀川キリスト教病院 ホスピス科勤務 平成 24 年 11 月 淀川キリスト教病院ホスピス・こどもホスピス病院副院長
10/17 (金)	菅野 典雄 (かんの のりお) 福島県飯館村村長  【演題】「お金の世界」から「いのちの世界」へ	帯広畜産大学草地学科卒業 昭和 45 年から酪農業に従事、飯館村酪農青年同志会 初代会長、福島県酪農青年研究連盟 会長などを務める。全国酪農青年婦人会議 副委員長、飯館村公民館長などを経て、平成 8 年 10 月飯館村村長初当選となり現在 5 期目 著書に「男からのラブレター」「わが思い 熱く 強く」「美しい村に放射能が降った」など。
10/24 (金)	木村 利人 (きむら りひと) 早稲田大学名誉教授  【演題】「いのち」を「幸せ」に生きるために ～ 態度に示す人生を～	早稲田大学第一法学部卒業(1957)。同大学大学院博士課程修了(1964)、博士(人間科学)。1965 年、タイ・チュラロンコン大学講師、1970 年、71 年ベトナム・サイゴン大学で研究と教育に従事。その後、1972 年スイス・ジュネーブ大学大学院教授、世界教会協議会(WCC)エキュメニカル研究所副所長。1978 年アメリカ・ハーバード大学研究員。1980 年ジョージタウン大学・ケネディ倫理研究所・国際バイオエシックス研究部長及び同大学医学部客員教授など、約 40 年にわたりバイオエシックスのバイオニアとして研究と教育に従事。その間、国際バイオエシックス学会及び日本生命倫理学会の設立理事会の一員も務める。1987 年、早稲田大学人間科学部創設にあたり、日本で最初のバイオエシックス講座担当教授に就任し、研究と教育を推進。
10/31 (金)	鎌田 東二 (かまた とうじ) 京都大学こころの未来研究センター教授  【演題】「日本文化から<いのち>の問題を考える」	國學院大學文学部哲学科卒業。同大学院文学研究科博士課程神道学専攻単位取得退学。岡山大学大学院医歯学総合研究科社会環境生命科学専攻中退。文学博士。NPO 法人東京自由大学理事長。身心変容技法研究会代表。 著書に、『翁童論』4 部作、新曜社、『宗教と霊性』『神と仏の出逢う国』『古事記ワンダーランド』角川選書、『霊性の文学』『聖地感覚』角川ソフィア文庫、『現代神道論 - 霊性と生態智の探究』春秋社、『究極 日本の聖地』KADOKAWA、『歌と宗教』ポプラ新書他多数。
11/7 (金)	高木 慶子 (たかき よしこ) 上智大学特任教授、 上智大学グリーンケア研究所特任所長  【演題】「私にとっての『いのち』は『他者を愛する力』です」	聖心女子大学文学部心理学科卒業。上智大学神学部修士課程修了。博士(宗教文化)。「生と死を考える会全国協議会」会長、「兵庫・生と死を考える会」会長。援助修道会会員。二十数年来、終末期にある人々のスピリチュアルケア、及び悲嘆にある人々の心のケアに携わる一方、学校教育現場で使用できる「生と死の教育」カリキュラムビデオを制作。幅広い分野で全国的にテレビや講習会で活躍中。著書に「死と向き合う瞬間～ターミナル・ケアの現場から」、「大震災・生かされたいのち」、「喪失体験と悲観～阪神淡路大震災で子どもと死別した 34 人の母親の言葉」など多数。